令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
アカデミック・セミナー	中期的な授業改善として 【レポートの書き方】 ・レポートの書き方が学生に定着できるように、授業回数を増やす方向で考える。 ・提出レポートにコメントや添削をすると、学生の学びに効果があるので、フィードバックを考える。 ・レポートを書くための、調査方法や図書館調査を授業に組み込むことも考える。 【ケース・スタディーズ】 ・ケース・スタディーズの授業の前段階として、そのケースに関連する内容の授業を講義形式で1回入れ問題意識を持たせることで、より深い議論ができるようにすることも考える。 【ディベート】 ・現在は学群内の他のクラスとディベートをしているが、R2年度前期で遠隔授業の活用方法もわかったことから、他学群とのディベートも可能か検討する。
キャリアデザインⅠ（事業）	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点についての自由記載】（抜粋） ・キャリアの意識を高めることができました。 ・グループディスカッションの練習ができたこと ・就活時に役立つ情報や知識を学べた点 ・普段はあまり話さない人とのグループワークで、周りの人の夢を聞くことができて良かった ・いい意味で講義らしくなくて面白かった。これの進化版のようなものが来年再来年もあればよいと思った。 ・キャリア形成に関して心理学的目線から学べたのは凄く楽しかったしワクワクした。 ・自分の将来のことに関してコトをこの時間だけは他のやらなきゃいけないことなどを気にせず、考えることができたので、良かった。 ・さまざまな企業で実際に取り組まれてきた分析手法を知ることができてよかった。 ・卒業生の講演がとても良かった。 ・わかりやすいスライド。惹きつけられるような話題。聞きとりやすい声。卒業生の話を聞けたこと。日経新聞から最近の世相について語ってくれたこと。 ・話がおもしろく、学生が食いつくポイントを押さえていた ・自分のやりたいことが少し分かることができました ・キャリア選択の際に非常に参考になる知識をしれた ・新聞の見出しを紹介してくださったことや、卒業生の話を聞く機会を設けてくださったことが、とてもありがたかった。 ・キャリアについてよく考えるきっかけになった。 ・１年のうちに実践的な内容でよかった ・就職活動に役立つ部分が多かったです ⇒キャリア形成で大切なことの一つに「自己理解」があります。主観的な自己分析をグループワークにて実施する事により、客観的な自己分析に繋がり、自己理解が深まります。多くの

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
	意見を受け入れる事で、多様性を身に付ける事も出来ます。また、将来のイメージを膨らませるために「社会人講話」を実施し好評でした。この授業を通して、多くの人の意見や話を聞き、自分のキャリアの可能性を広げて欲しいです。 【改善点についての自由記載】（抜粋） ・出席確認の端末がやり辛かった ⇒教務課に伝えます ・社会人の先輩をもう少し業種や学類に幅をもたせてほしかった ⇒講義内でも説明しましたが、学類選択と就職先が必ずしも一致しないということの例示のために金融関係で働かれている卒業生の方をお呼びしただけですので、複数の業種の方をお呼びする予定はありません。ちなみに社会人の先輩に話して頂くのは２年生後期のキャリア開発Ｉで行う予定です。 ・講義のある日ない日を講義内でも提示してほしい ⇒案内されているものと思っていました。努めます。
キャリアデザインＩ（食産）	この「キャリアデザインＩ」では、人生１００年時代のキャリア形成を考えると共に、自己理解の必要性について伝えてきました。グループワークやアセスメントツールを活用し、自己分析の方法も提示致しました。また、職業選択に対して、視野を広げ、自ら情報収集、活用できるように、社会の第一線で活躍されている外部講師の方にも登壇頂き、刺激を受けた学生も多いです。最終課題の「キャリアデザインシート(大学編）」では、自身の将来像と今の学生生活を確認し、今後の大学生活をどのように過ごすのかを確認できたと思います。 なお、グループワークを実施する便宜上、座席指定で班分けをしております。しかし、主体性を身に付けるために、座席指定・班分けするかを再度検討致します。外部講師などは、学生のニーズを反映できるような人選にしたと思います。
情報化社会と技術	・他のクラスと比べて、課題が多いような気がします。 ・隣のクラスとやってること違いすぎる テストのレベルが違いすぎる。 　他クラスとの授業内容や課題量の調整を図ります。 ・看護に必要なのか分からない。 　看護の学生さんにも必要な内容です。そのことを15回を通じてお話したつもりでしたが、伝わらなかったのは残念です。来年度はよりわかりやすい授業をめざします。 ・難しい ・よくわからなかった 　難しい内容であると冒頭に申し上げました。正解の無い問題ですからわからないのは当然です。教員だって答えなどわかっていません。しかしそもそも、そのような問題を扱う授業であるということがうまく伝わっていない気がします。去年よりはその点の説明を丁寧にしたつもりでしたが不足だったようです。来年度はよりわかりやすい説明をめざします。
English Reading Skills II	単語テストの出題の仕方については、今後英語部会の中で検討していくこととしたい。予習の時間少なかったクラスに関しては、もう少し課題を増やすなどして対応する。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
English Self-Expression Ⅱ	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。 各担当教員の授業の内容と進め方を統一する必要がありますので、再度、担当教員が集まり、確認したいと思います。 授業中、少数の学生は英文を書く時間が短いと感じていたかもしれませんが、クラス全体のレベルに合わせて時間を決めていました。 英会話に関して学生は自信があまりありません。自信を持てるように指導していきます。（授業で褒める等）。また、文法などをあまり気にしなくても良いから多く話す、間違いは恥ずかしくないということをわかってもらえるようにしたいです。 そして学期初めに、先生が学生に英語目標について伺います。可能であれば、その学生の目標に沿って工夫し、効果的な授業を行います。 教科書の内容はアカデミックトピックが多いですが、学生たちが日常生活の英語表現も学べればと思います。先生が授業で工夫をします。 授業ではペアワークが多く、公平さを考え、先生がペアをランダムに決めることとします。コミュニケーション授業ではペア作業が多いのは仕方がなく、知らない人と会話するのは嫌だと思うが、慣れるしかありません。
English for Academic Purposes Ⅱ	引き続き、わかりやすい、技術の身に付く授業を展開していきたい。
Extensive Listening	アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語の違いにフォーカスし、各国の訛り、各国で固有に使われる語彙・表現を取り上げリスニングをする際に学生が理解しやすいように工夫を凝らした。 またリスニングをする際には、そもそもその状況で使われる表現を知らないと頭に入ってこない訳であり、このため状況別の表現演習も行った。リスニングは精聴と粗聴をバランスよく取り入れながら伸ばしていくべきものであるが、本クラスでは多くの学生が真剣に取り組んだものの、一部、真剣さを伴わない学生が存在した。リスニングのクラスは少人数で行うべきもので、今年度は大和の履修者が60名弱で学生のマネージメントが効率良く行えないジレンマがあった。 上記を改善するために考慮すべきことは以下である。 ①最終到達度が上がることでモチベーションが上がり、取組度も上昇する。このため更に日本人に必要なリスニングポイントを取り上げ、学生のリスニング力改善に寄与する。 ②到達度、進捗度の見える化を図る→モチベーションアップにつながる。 ③少人数クラスにある、学生との更に高いインターラクションを目指す。 コミュニケーション力向上の道具としてリスニング力が伸びるよう援助を惜しまない所存である。
中国語Ⅱ	・中国語の発音を指導する時、日本語の発音と対応させ、比較しながら進めてきた。日本語にも似たような音があると先に説明し、発音に対する不安を和らげる。その後その違いについて、わかりやすく説明する。 ・発音の学習の間に日常用語や、教室用語を導入し、中国語に親しんでもらう。　・これからもわかりやすい指導を心がけていきたいと思う。授業の関連学習にはもっと工夫する必要がある。 ・ほとんどの項目で高い評価が得られた。関連学習（事前・事後学修）が少ないとのことだったので、使用テキスト外からも様々な学習を取り入れ学生にとって実りある授業にしていきたいと考えている。 ・これからもわかりやすい指導を心がけていきたいと思う。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
韓国語 II	今までの韓国語 II の授業は、韓国の文化として言葉が持っている思想を中心にして講義を進めてきたが、これからは、実用的の文化を紹介する授業として進めていく。実用的の文化とは生活のなかでの礼儀、習慣のような日常の生活の様子を言ったもので、これらの生活文化を紹介しながら関連する言葉や会話文を覚えていく。それによってより韓国語について理解が深めるようになると思われる。また、講義を聞くことだけでなく、インタネットやDVDなど視聴覚資料を積極に使い、授業の内容がより楽しく、理解もしやすくなるように改善していく。
ベトナム語 II	ベトナム語 Iは、ベトナム語で簡単な挨拶や自己紹介など基本的な日常コミュニケーションが撮れるように初級レベルの「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」といった4技能をトレーニングします。ベトナム語II は会話表現に重点をおいて授業を運営していきます。正しい発音を身につけて簡単なコミュニケーションがとれるようにします。言葉を通じて少しでもベトナムの文化に触れ、理解することを目標とします。そのため、ベトナム語に触れられる環境を増やすようにこれからできるだけ視覚副教材を多く使用するようにします。
Global Studies II	１）Webアプリを使って学生同士意が毎週の課題について見交換ができる場を導入する。 ２）課題(reading)の読解理解を図る問題を増やすことで、問題（問い）のタイプを増やします。 ３）取り上げるトピックの数を減らして、もっと深く学生と一生に考えたい。
Intercultural Communication	１）Webアプリを使って学生同士意が毎週の課題について見交換ができる場を導入する。 ２）課題(reading)の読解理解を図る問題を増やすことで、問題（問い）のタイプを増やします。 ３）異文化間コミュニケーションの問題を解決するスキルを事業のコンテンツに取り入れる
日本の歴史と文化	〇アンケートの結果から、到達目標や教材に難しさを感じた方が居たように窺われます。暗記の歴史から脱却し、考え方の習得に重点を置いた目標ですので、今後もこの目標は維持していきたいと思いますが、その分、皆さんが難解さを感じずに講義に取り組めるような授業運営や講義資料の作成を心掛けたいと思います。 〇改善点として、授業環境の維持と進度の遅れについてのコメントが寄せられました。私の力不足の点です。今後は、学びたい学生さんが多くいるのだということを十分に認識し、環境管理と進度管理に努めます

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
世界の歴史と文化	アンケートの回答ありがとうございました。今後の授業に役立てていきます。 【良かった点】 自分で考える機会を多く設けたうえで授業を行っている。 ・世界史や人類学の目線で、過去も現代も考えることができてすごく楽しかった。 ・香辛料の実物を用いるなどの工夫が理解を深めやすかった。 ・多角的な視点で見ることができるようになった。 ・世界史の深いところまで学べるところが良かった。 ・おもしろい授業だった。頑張った人はしっかり評価されるので良いと思った。 ・脱線した話も面白かった。 ・内容がとても面白かった。講義を通して読書経験を増やせたのが良かった。 ➡次年度も、工夫を凝らし学生が考え、魅了てきな授業にしていきます。 【改善したほうが良い点】 ・進度が速い➡学生に聞きながら、ペースが速いようであれば、遅くするように心がけます。 ・PPTを表示する際、照明を消すので教室が暗くなる点➡毎回授業で暗くないか確認していました。 【その他】 ・教養としての世界史にとどまらずに学べたことが良かった。インドについてもっと深く学びたかった。➡今後、ビルマの回の前にインドの話が出来るか検討します。ご意見ありがとうございました。 ・歴史や文化だけではなく、『象を撃つ』などで、人間の内情の部分にも触れながら学ぶことができました。➡授業を通じて本を深く読むことを修得できて、良かったです。
東北の歴史と文化	〇授業アンケートでは、授業計画や内容・教材等、概ね肯定的に評価されており、また歴史そのものへの見方の変化や、視点の変化など到達目標に合致するコメントも寄せられているので、講義の大枠は今後も維持していきたいと思います。 〇マナーの維持努力に不足があったようです。関心を持って受講している人がいるということを十分に考慮し、教室環境の維持に努めたいと思います。
人と宗教	今年度は「イエスの生涯」や「ブッダの生涯」など、およそ中高生でも知っているような知見を交えて、難易度を下げたつもりであるが、それでもなお難しいと感じられているむきも多いということでしょうか。この講義は私が担当しているなかではもっとも易しい科目であり、また「質の保証」という点からこれ以上難易度を下げることは考えられないので、これから履修する学生さんに履修者の皆さんからアナウンスしてもらえると助かります。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
現代社会と哲学	難易度に関して平均点を上回っていたので、このままの水準を維持したいと思います。「内容がよくわからない」という意見もありましたが、それは個人的理由によるものと判断します。コメント・ペーパーには「内容がよくわからなかったので、もう一度説明してください」といった意見はございませんでした。なお、この講義は、概念的思考や論理の重視、活字中心の講義スタイルなど、皆さんが苦手としていることを敢えてやっています。レポートのルーブリックを解説する際にも申し上げましたが、大卒者には記号（文字・数式）を操る能力が求められます。そのための訓練だと思ってください。私語に関しては、教室が大きいとなかなかこちらには聞こえてきません。「（うるさくしている人には）注意していいよ」と申し上げておりましたので、挑戦してみてください。
心理学	
現代社会の諸相	この授業では、おおむね社会学の知見を中心に教えていますが、社会学の知見は総じて「常識を疑う」タイプのそれが多いので、とっつきにくいところはあるでしょう。おまけに、概念的思考と論理重視を心がけていますので、大変だろうと思います（先輩から後輩にこの種の情報は伝わっていないでしょうか）。それでも、このスタンスを崩さないのは、過去20年以上の蓄積とフィードバックがあるからなのです。皆さんが苦手としていること（人によっては、初回の正誤問題からしてそうでしょう）を敢えて行っている自覚はありますが、訓練の場だと思って、御寛恕ください。なお「講義が適当で意味ない」とのコメントがありましたが、以前、早稲田の文学部で授業していたとき「先生はチャランポランに見えて、実は超アカデミック。『これぞギャプ萌え～』」と、学生さんが発行している雑誌に書かれたことがあります。概念的思考や論理重視を心がけているにもかかわらず「適当」「チャランポラン」という印象を与えてしまうことは（実態がどうであれ）私の不徳の致すところと反省しております。
憲法	授業評価アンケートへのご協力をどうもありがとうございました。 【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・授業で取り上げた法に関する事例が挙げられていてわかりやすかった。 ・説明がとても丁寧かつ分かりやすくて、講義が面白かった。興味を持って受講することができた。 ⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。次年度も引き続き、受講生の皆さんにとって解りやすい授業を心がけます。 【改善すべき点についての自由記載】（抜粋） ・授業の進度が合わなくてプリント探しが大変だった。 ⇒講義の説明は次回の講義に持ち越さないように努力します。
社会と経済	平均値に比べ，高くなかった点について検討したい。「難易・進度の適切性」が平均よりやや低かった。ある程度は理系数学Ⅲを使用しており，説明は簡単にしているが，不足していたかもしれない。例題を増やすなどして，文系出身の学生にもわかりやすくなるようもう一工夫したい。また，「学生自身の授業目標到達度」がやや低かった。人数にもよるが，双方向的な要素を増やして，試験・レポート以外でも確認して進めるように検討したい。以上が次年度に向けた改善計画である。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
数理科学	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【この授業に関して、良かった点】 ・欠席者へのフォローが手厚く、平等に学習する機会がある ・先生が面白くて授業が楽しかった。 もっと先生の話を聞いてみたかった。 →内容に関して，興味を引きかつ大学での数学として思考力を問う課題を選び得ている，と理解でき嬉しく思います。一方でまだ他に扱える内容もあるので，講義としてどのように成立させていくか取り組んでいきます。 【改善したほうがよい点】記述が無かった →改善点に関して特記されたなったことについては，アンケートの実施方法や対象者の抽出上の観点から単純に評価をしえないという立場をとるべきだと考える。一方で前年度の改善点への対応によりは十分に行い得たとの認識を自負もある。今後の個人的な取り組み方針としては，難易度を上げつつ，解かり易い教材開発に注力していきたい。特に，練習問題を増やし，演習を通じた理解と，テキストの作成を通じて対応したく思います。
生命科学	授業評価アンケート、ありがとうございます。オンラインでのコメント提出期限が短い、との意見が複数ありましたので、期限を延長する方向で検討します。以下に皆さんからのコメントを記します。 【良かった点（抜粋）】 ・基盤科目でありながら、生命科学の最先端の知識を盛り込んだ内容の濃い講義を行なって下さったこと。 ・プレゼンがとても見やすかったです。時折、動画もあったので単語に対してイメージがしやすくなりました。 ・外部講師に他大学の教授をお呼びすることで本大学にはない学びをすることができた。 【改善した方が良い点】 ・5限目まで授業があったり、家が遠く道中インターネットに接続出来ないような学生にとっては、コメントカードの締め切りが当日までというのは少し厳しかったです。せめて、翌日の早朝までであれば、電車の遅延などのトラブルがあって夜遅く帰ることになっても、コメントをもっとじっくり考えて投稿することが出来たと思います。。 →MOCAの締切を長くします。
環境科学入門	履修者からの要望もあり，双方向のやりとりをより強化していきたい。一部にディスカッションやディベート形式を取り入れた講義スタイルとしたいが，コロナウイルス感染症蔓延の中にあっては，特段の工夫が必要と思われる。また，基盤教育科目でありながらも，履修者の所属学群の特色を反映させた内容を取り入れていきたいと考えている。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
地球と宇宙	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点の自由記載】（抜粋） ・終始楽しかった かつテストが定期的にあったこと ・フィードバックが行われた点がよかった。 ・とても面白かった → 一部学生の興味関心を喚起することができてよかったです。最新の話題を入れ込むなどして、より関心を強めることができるような内容に改善を図りたいと思います。 【改善点の自由記載】（抜粋） ・特になし 【その他、意見、感想、要望等の自由記載】（抜粋） ・自分も地理の分野に興味があるのでっても楽しく講義を受けれた → 地球や宇宙の話題を身近なものとして捉えてもらえるよう、引き続き講義を改善していきたいと思います。
数学概論	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【この授業に関して、良かった点】（抜粋） ・教科書には練習問題があるものの、その回答、解説が記載されていなかったが、練習問題の解答を配布していただいたおかげで復習やテスト勉強がはかどった。 →教材の改善が効果を上げたコメントとして，今後の更なる教材開発の励みとしたい。 【改善したほうがよい点】（抜粋） ・テストの行列の単元のウェイトを他の単元と同等にしてほしいと感じた。全単元勉強したのにその成果を発揮できないからだ。また、行列は単純計算問題なのでケアレスミスしやすくなるので大半が行列の問題だと不安になった。。 →今年度から本格的に導入した「線型代数」における内容に関する，期末試験でのウェイトに関する要望でしたが，点数配分上のウェイトは均等であり，その意味では今後の改善点としては捉え難い。一方で，各分野の配点ウェイトを事前に説明することで，受講生の不安の払拭は行えるかもしれない。一方で，期末試験出題者としては，ウェイトを事前に公表することが，受講生の学修上の悪影響を惹き起こさないか，よく検討して対応していきたい。
物理概論	動画などを用いて、身近な物理現象を定性的に説明できるように授業を進めたが、主として今後は生物学を専攻していく学生には有効であったと指摘された。今後も、導入していきたい。定性的な説明を求める機会が多いが、より詳細に説明を加えていきたい。
基礎統計学	よりわかり易い講義展開を心掛け、事前・事後学習を促す。また、学生の質疑にはきめ細かく応え、当該科目の重要さを指導し、自助努力を促す。さらには、学生の様子を見ながら、必要に応じてコミュニケーションを取り学習姿勢を改善させる。
音楽	
美術	本科目は、美術館見学に加え、世界的に活躍する美術作家を非常勤講師として招聘するなど、学生の美術教養を涵養する絶好の機会となっており、今後も継続してこの構成を維持していく。
総合芸術	

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
健康科学	心理学、食育、医学と立場の違う3名の教員によるオムニバス形式の授業なので、そのメリット・デメリットがあると思います。 3名の教員で授業内容が大きく異なるために、試験の形式も異なるため、最後にまとめて試験を行うという形式はなじまないと考え、各教員の担当授業の最後に小テストを行う形式にしています。オムニバスという授業の形式上、3回の小テストという形式は今後も継続することになると思います。 受講学生の意欲は高かったように思いますが、人数が多いため、やや静粛さに欠けたところがあったかもしれません。
スポーツ科学	・時間割変更などの影響もあり、受講者数が少なかったため、授業評価アンケートではコメントをいただけなかったが、レスポンスカードやまとめレポートの内容から、ある程度の満足度、学習成果等があったものと思われます。シラバスの内容をベースに、受講者とディスカッションしながら興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしたところ、授業がきっかけで健康づくりの意識が高まり、運動のみならず、授業時間外で食事や睡眠などを含めた個別指導を受ける等、行動変容につながった方が複数いたことを嬉しく思っています。この分野は次々と新しい理論や方法が出てきますが、それらは本当に正しいのか、各自にとって適しているのか等を見極めつつ、今後も一緒に健康づくりができることを楽しみにしています。
スポーツ実技	・授業評価アンケートや個人カードの内容等から、ある程度の満足度、学習成果等があったものと思われます。特に、「スポーツが苦手でも楽しめる」、「授業外でも質問を受けて頂けてよかったです。」、「効率よく体を動かす意味を知れてそれだけで価値があったと思う。」といったポジティブな意見をいただけたこと、とても嬉しく思っております。授業は終了しましたが、今後も生活の中に定期的な運動を取り入れ、積極的に健康づくりに取り組んでいただきたいと考えています。 ・初回ガイダンスでお伝えしたように、体育館の規模（コート数）と受講者数の関係から、競技によっては「試合」、「運営（審判）」、「試合準備(練習）」のローテーションになる種目もありましたが、受講生のみなさんの運営協力によってスムーズに行うことができました。一方、後期の授業では運動に適さないような寒い環境になる場合もありましたので、体調変化の自己・相互チェックはもとより、防寒具の着用や体温維持を意図した基礎運動の実施を促していましたが、次年度以降はさらに注意喚起をしていきたいと思います。
体を動かす楽しみ	・授業評価アンケートでは「初めて体験するスポーツが多く、新たな発見があった。」、「男女混合で、色んな人と仲良くなれた。」等の意見があり、また、個人カードの内容等から、ある程度の満足度、学習成果等があったものと思われます。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは嬉しく思っています。 本科目の終了後も、運動の形式にとらわれず、オリジナルダンス・体操の振付等の経験を活かし、時には自分なりのアレンジを加えながら運動を習慣化し、積極的に健康づくりに取り組んでもらいたいと考えています。 同じ種目（運動）でも、運動強度は個人によって感じ方が異なりますので、体の動かし方・使い方、運動継続時間等を調整するよう全体及び個別にアナウンスしていましたが、次年度以降はさらに具体的な説明、指示をしていきたいと考えています。また、体育館の寒暖差は大きいので、気温に合わせて器材の使い方や授業の進め方（変則ルール等）をより工夫して対応したいと思います。
日本語Ⅱ	授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。今年も授業で多くの事柄について時間をかけ丁寧に説明しました。また、毎回皆さんに多くの質問をし、即座に（単語だけの返答でなく）文で表現して答えてもらうことにより、自己表現の練習を多くしました。一つずっと気になっていたことは、授業中にこちらが強調したことをノートに書き留め、授業の復習をする人が、皆さんの先輩たちと比べ、少なかったことです。（特に大和キャンパスの授業で。）それで、しっかりとノートを取り、前回の授業で読めなかった漢字を読めるよう復習しなさい、と毎回のように言いました。後期の日本語Ⅱで成績が上がった人は、これらの点を実行した人たちです。 来年度の日本語の授業では、授業ノートのコピーを定期的に提出してもらおうと考えています。

令和元年度後期　授業改善計画（基盤科目）

科目名	授業改善計画
日本事情Ⅱ	少人数を生かして学生の授業での発表の場を増やします。
全学自由ゼミ	
コミュニティ・プランナー実践論	・実践性を意識したコミュニティ・プランナー科目として、実際のフィールドを舞台にプロジェクトを立案する学修活動に取り組んだ。講義では実際に地域社会でコミュニティ・プランナーとして活動している方々の講話やサイトビジットを設定した。そこから得られた知識だけでなく、実践者の姿勢や地域への想い、フィールドとする地域やコミュニティとの付き合い方などを今後の学修活動や実践に活かしていってほしい。来年度以降も地域活動の実践者やサイトビジットを設定していく。

令和元年度後期　授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
臨床心理学	自由記述の主なものは以下のとおりです。 良かった点 ・様々な検査や治療の仕方を学ぶことができた点。 ・要点がまとめてあってよかった。 ・図がわかりやすい。 ・精神看護の基礎が学べたこと。 ・テスト前の問題解説がとてもわかりやすかった。 改善したほうがよい点 ・講義資料が読みにくい。 講義資料が読みにくい点は文章表現のことなのか，体裁のことなのかなど把握しかねるところがありますが，それら全体と考えて，改善するようにしていきます。
人間関係論	できるだけ具体例を挙げて、わかりやすい説明を心がけています。おおむね達成できていると考えています。 人間関係（対人関係）についての知識やスキルは、看護業務だけでなく、日常生活の中でも必要なものです。看護業務との関わりについては意識して講義していますが、できるだけ具体的なイメージが持てるよう事例等の工夫を続けていきます。 講義資料の配付の仕方については、ほぼ毎回配っていますが、人数が多いため配布に時間がかかることを避けるために、大ざっぱな配り方になっていますが、改善について考えます。
形態機能学Ⅲ	「o レジュメが見にくい。」 できるだけ善処します。見えにくい箇所はwebにアップしたオリジナルを見てください。 また、要望があれば講義後に早めに具体的に伝えてください。そういうう積極性も必要です。
薬理学	「o レジュメが見にくい。」 できるだけ字を大きくするなど善処します。見えにくい箇所はwebにアップしたオリジナルを見てください。スライド当たり情報量が多いのは、資料内で深く深く理解するための十分な情報が1枚に収まるようにしてあり、皆さんの事後勉強用です。これだけ覚えればいいという資料でもなく、ただの口頭説明用スライドでもありません。 また、要望があれば講義後に早めに具体的に伝えてください。そういう積極性も必要です。 「o 後期の中でも、前半は水曜の１限、後半は火曜の５限と分かれていたのが予定が立てずらかった。」 担当教官の時間の都合上ですので、申し訳ありません。
栄養学	2019年度の反省点として、前半の基礎的な部分に時間を費やしすぎて、後半の応用栄養学の部分が十分な時間をとることができなかったことが挙げられる。学生の授業評価にも挙げられていたように、栄養学の基礎的な部分は、高校時代の生物、または他の教科で学修しているのであえて詳しく授業で取り扱う必要がないとのこと、次年度は、時間配分の改善が必要である。基礎的部分を薄くして、後半の実践的な応用部分について時間配分を多くとるように計画を変更する。そして、教科書に書いてあることについては、できるだけ、授業前後にノートにまとめるなど、まとめる項目をあげるなどの躯体的な指示をだすことにしたい。

令和元年度後期　授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
公衆衛生学	自由記述は以下の通り この授業に関して、良かった点 　保健師になるために必要な知識について知ることができた点 　外部講師の先生も交えて、理解が深まった 　保健師が特に考えるべきことを学べた方 　特になし。 改善したほうがよい点 　ゲストの方の話が多すぎて、肝心の知識があまりはいって来なかった。 　外部講師の資料が大変見にくかった。 その他、意見、感想、要望など 　外部講師のお話を聴けるのが毎回楽しみでした。 　土曜日に行われた講義は、内容が休日に時間をかけて大学まで来て聞くほどのものでもなかったように感じる。ゲストに講義してもらうほどの内容ではなかったと感じている。 　あの量の内容を15コマで終わらせるのは無理があると思う。 わかりやすい説明を心がけているつもりだが，それでも難しいという意見があったので，改善を進めたいと思う。しゃべり方も気をつける努力をする。講義時間が守られるよう，外部講師も含めて意思統一を図る。
疫学Ⅰ	自由記述は以下の通り この授業に関して、良かった点 　テストの難易度が適切であった。 　練習問題や冬季課題があることで自分がどれ程理解してるかを確認することができた。 　大事な所は次回の講義においても説明があった点が有難かったです。 　練習問題を配って頂いたことで、勉強の材料になった 　計算を詳しく解説してくださった点。 　テスト対策問題を配布した点 　教科書 　まったくない 　まとめが分かりやすかった 改善したほうがよい点 　教科書が少し理解するのが難しかった 　授業で説明しきれていないところまで試験に出題されている。 　教科書が分かりにくかった点。 　説明が分かりにくい　教科書必要なのか 　教科書（参考書）は違うものにした方がいい。

令和元年度後期　授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
	その他、意見、感想、要望など おすすめの参考書などを紹介して頂きたい。今後のため解説が詳しく載っているものなどが望ましい。 授業で国試の過去問を取り扱って欲しかった。国試の問題の解説を詳しく教えて欲しかった。 小テストや練習問題の頻度を高くして欲しい。 特になし。 言葉そのものの意味が分からない物もあり難しかった。 内容が難しかった。 説明を受けても、理解するのが難しかった。 国試の問題解きながら解説見てた方がよっぽど内容が理解できる 教員側から一方的な講義で理解が困難だった。講義の進め方を工夫してほしい。 わかりやすい説明を心がけているつもりだが，それでも難しいという意見があったので，改善を進めたいと思う。しゃべり方も気をつける努力をする。 この講義科目が必修なのは，「この講義科目の内容が必要かつ重要である」という合意のもとに行われているので，選択科目にするのは難しいと思う。
学校保健論	・前半は基礎的な知識の習得を中心とし、後半は実践的な知識や技能を生かした演習を積極的に実施する。 ・演習では、よりスムーズに実施できるよう、教室や教室内のレイアウトを工夫して実施できるように努める。
疾病論Ⅲ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験もよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思います。
看護情報学Ⅱ	「情報学＝PCの使い方」という見方が強く，どうしてもPCのスキルに関しての学習が多くなるが，特定のスキルの練習を行なってしまうと，それ以外のアプリや機械が出てきたときに利用できなくなってしまう。特定のアプリに依存するだけでなく，情報機器の仕組みなど普遍的な知識やスキルの教授を増やすべく，検討を進める。や，新しい情報機
看護実践論	今年度、事例について自分たちが立案した看護計画でロールプレイを行い、それを撮影した動画を用いて全体でデブリーフィングを行うというプログラムを実施した。学生の主体性や創造性を発揮する良い機会となったため、今後も学生参加を促す方法を取り入れていく予定である。診療の補助技術に関しては、自分の責任や倫理、安全への気づきなどの学修の狙いを明確にして、単なる体験で終わらせない工夫を検討する。グループワークの個人の貢献についての評価は、今後ルーブリックの活用やピアレビューなどを検討し、メンバーとしての責任が自覚できるような働きかけを行っていく。
ライフステージ看護学概論Ⅰ	・授業の展開方法については、事前・事後学修の実質化も含めて学習効果をあげるために可能な範囲で統一を図ることと、講義内容の特徴から多様な方法を残すことの両面から吟味していきたい。小グループによる高齢者との交流を通じ、ライフステージと健康について考えるワークは可能な限り継続し、講義を主とするコマについて改善を検討する。
地域看護学概論	授業評価結果は、平均よりも低く、良いとは言えない結果であった。自由記述では、良かった点として「大事なところを講義中に示してくれる」「保健師がどのようなものか具体的にわかった」等、授業の中で工夫している点を挙げていただいたが、改善したほうが良い点の記述は「特になし」であった。最大値はすべての項目において50点満点の評価であるが、最小値も-50点の項目もいくつかあり、これが平均点を下げていると考えられた。病院や施設での看護師に関心がある学生にとって、地域看護学は、興味がわかない授業であることは以前からも把握しており、興味がない学生にも理解しやすく、どの看護においても地域看護学は必要な知識・技術であることが理解できるよう工夫していきたい。
家族看護論	今回はたくさんのご意見をありがとうございました。多くの皆様が演劇を通して家族看護の理解に深まりを感じていただいていたようでした。ただし改善した方がよい点として、小テストにより理解を深めたい、提出課題の説明をもっと明確にしてほしいという2点の意見をいただきました。大変有意義なご意見なので、今後に大いに生かします。ありがとうございました。海外DVD視聴は賛否が分かれているようですが、こちらの内容は2年生の段階では非常に難しい内容かもしれません。さらに2年生の段階でも理解が深まるような補足説明を充実させていきたいと思っております。
災害活動論	本科目は、選択科目であり、災害看護プログラムに関心のある学生が履修しており、授業評価項目の各平均点は、全授業の平均値より、すべて高い値であった。特に、知識・技術等の学修について得点が高く、自由記載でも、実践的な授業を通して、学びを得られていたことの記載が多かった。 一方で、学生自身の授業目標到達度は、本科目の他の項目に比べるとやや低く、学んだことを実際に活かす機会がないことが挙げられていた。また、搬送・応急手当の演習では、丁寧な指導を求める声もあった。令和元年度は、前年度よりも履修学生が20名程度、多かったが、教員数は、前年度と同様であった。演習の内容をより臨場感をもって行い、実践能力につなげられるよう、設定内容を充実していくとともに、より安全かつ効果的な演習の実施に向けて、教員の運営体制を強化したい。

令和元年度後期　授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
治療看護論	治療看護論では、講義中の動画の活用やグループワークを実施しており、「学生が主体となって学べ、とても楽しい授業だった」「グループワークを通して自分の気づかなかった考え方に触れることができた」「他学生の意見を聴くことができたことが視野を広げることにつながった」「学生間での意見交換の場があった」という授業アンケートでの回答がありました。授業に関する改善点、要望はありませんでしたが、今後も動画やグループワークを取り入れながら、履修者の方が主体的に学び、学習の視野が広がるように学習内容や学習方法を検討していきたいと思います。
看護技術論	看護過程で用いる問題解決思考は抽象度が高く、低学年の学生には理解が難しい部分も多い。また、専門基礎科目の習得も進んでいないため、健康障害に関するイメージもつきにくい。講義で用いる具体例については学生がイメージしやすいものにする、看護過程のステップごとの事例検討を増やすなどして理解が深まるように配慮したい。また興味を持って事前・事後学修を拡充することができるようにジグソー法を取り入れ、お互いが教えあうような活動を取り入れることを検討している。
看護援助技術論Ⅰ	単にまねるのではなく、根拠を考えながら技術を習得できるように運営するという基本方針は継続する。次年度は、講義と演習部分のつながりをさらに強め、事前学修で講義・演習に必要な基礎的知識を確認し、事後学修で講義・演習内容を踏まえた発展学修という流れを確立する。試験等のスケジュールに関しては開講時にオリエンテーションを行っているが、ラボに進行スケジュールを掲示するなどして学生への意識付けを行っていく。また、実技練習に関しては試験前に集中する傾向があるため、事前・事後学修に実技的要素を取り入れ学修の平準化を図る。演習の質の担保を図るため、担当教員間の事前・事後の打ち合わせを徹底する。
母性看護援助論Ⅰ	本年度は、授業形態を抜本的に見直しました。指定教科書の内容を中心に据えて、教科書では理解が難しい点や要点について資料を作成し、連動させて分かり易さを目指しました。学生の皆様からの「講義の流れがつかみやすかった」「自主学習がしやすかった」「テスト前も楽しく復習できた」「ポイントが押さえやすかった」等のコメントから、この授業の進め方が良い評価であることが分かり、見直してよかったと安堵しています。しかし、「教科書のページなのか、レジュメのページなのか分からないことがあった」との指摘もありましたので、注意したいと思います。 　また、質問には丁寧に答えたつもりですが、それが良かったとする意見と、「授業の始まりから10分と決めてやって頂きたい」「進度が遅れることがあり、徐々にしわ寄せができて講義内容を詰め込むことがあった」との意見もあり、質問への回答の仕方の準備・工夫が必要と思いました。 　全体には、「学生自身の授業目標到達度」と「授業外の学習時間」の評価点を上げることが、さらなる課題であると認識いたしました。
小児看護援助論Ⅰ	・教材等については、担当教員間で可能な範囲で教材・資料の提示方法を統一する。図表を中心とした資料については、授業内容における資料の位置づけや活用方法等について、丁寧に説明し、学生の理解を図っていく。レスポンスカードや筆記試験への回答状況を点検することにより、学生の理解の弱い部分を重点的に強化できるようにしていきたい。イメージしにくい症状に対する看護については、動画を用いるなどして、学生の理解を深められるよう取り組んでいきたい ・クラス編成については、2回の演習において、クラスによる実施順序を変更することを検討する。 ・事前・事後学修については、必要な知識や技術を確実に身に着けてもらうために、期末試験以外に小テストを実施する、課題を課す等の工夫をして、実質化を図っていく。
精神看護援助論Ⅰ	本科目の授業時間外の学修について、前年度の平均は1時間未満であったこともあり、本年度は授業の前後での課題を提示したことで、授業時間外の学修時間の平均が1.2時間と、1時間を超えました．しかし、全授業の平均に比べるとまだ少なく、一コマ当たり前後2時間づつ授業時間外の学修時間が必要であるという目安と比べても、まだ少ない状況と考えます．授業評価のコメントの中には、課題が多いという意見もありましたが、授業時間外の学修は十分ではないと考えます．課題の内容や自己学習として取り組みやすい課題については、再度検討し、学修の到達目標への到達度が高まるような課題等を考えていきたいと思います．
在宅看護援助論Ⅰ	【電子媒体と紙媒体教材の活用について】 　Mocaの活用により講義資料が事前に閲覧可能となること，e-learningシステムの積極的な活用の観点から，当初は資料の配布を予定していなかった。しかし，授業開始後に「印刷資料が手元にある方が理解やしやすいため，資料をアップした場合でも授業時は紙媒体で配布してほしい」という意見が複数寄せられた。そのため，早期よりコアとなる資料は印刷し，希望者に配布した。 　出席者のほとんどが資料を受け取って授業に臨み，直接書き込む学生も見られたことから紙媒体資料のニーズは高いと考えられた。今後も電子媒体と紙媒体のメリットを踏まえて教材を使い分けていきたいと考えている。 　このように，改善可能な要望についてはただちに対応するため，今後もレスポンスなどを通して率直な意見をお願いしたい。 【制度の理解について】 　制度の理解については，苦手とする学生が多いため，昨年度より授業時間数を増やしている。ミニテストや試験をくり返すことにより，知識定着の効果が出ていると考えられる。来年度もアウトプットを意識した働きかけを継続する。
教育内容論	今年度と同様の講義環境を制度的に保障する。

令和元年度後期　授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
相談心理学	複雑に要因が絡み合って生じる問題について扱っているので、ポイントを絞って説明することで、問題を単純化して理解されることが危惧されます。そのため、ポイントを絞った説明は難しいところがあります。一方で、多くの問題に共通する要因もあるので、そこでは押さえるべきポイントを明確にしていきます。 こころの問題をかかえた子どもたちの様子について、具体的なイメージがつかめるような説明を心がけています。 授業中に出した課題については、成績に加味しています。
代替療法	呼吸法によるリラクゼーションの体験、アロマテラピーについて演習を取り入れている。体験を通して、代替療法の効果を実感できる授業方法である。今年度は、代替療法に関する研究論文を用い、専門的研究論文の知見を看護に活用する方法も取り入れた。体験的な効果の実感に加え、専門的思考力を養うことができるため、来年度も継続する。
災害看護支援論	・授業アンケートの回答率が10.5％であり十分な評価ではないと考えられる。次年度は、アンケートに回答する時間を設定するなど工夫していきたい。 ・回答した学生は、どの項目も回答スケール上の反応平均値を上回っており満足のいく講義内容・方法だったと考える。
教職実践演習（養護教諭）	今年度と同様の講義環境を制度的に保障する。
疫学Ⅱ	意見は以下の通り 良かった点 　中間テストを行ったことで、自分の実力を確認し、最後の試験につなげることができてよかった テストの解説が聞けたことと、それが分かりやすかった。 改善したほうがよい点 その他、意見、感想、要望など 　疫学Ⅱの授業を見習って、他の授業の試験でも、テスト問題の解説をした方がよいと思う。もしくは、希望者には行う等。 テストしただけやレポート課しただけで、学生の学力は伸びないと思う。四年生の後期科目であり，学生の関心は国家試験に向かい，結果として国家試験への対策を本講義でも期待されるが，それだけではなく，幅広い知識の教授が必要であると考えている。全体に教授する内容を精査し，知識や技術の定着に加えて学生にとって興味深い内容となるような内容にすることを検討する。
公衆衛生看護マネジメント	国試対策を考慮して12月まで終了するため、授業評価の周知ができないことから、回収数は3にとどまっている（周知について工夫したい）。しかし、すべての項目において、全授業の平均値より高い評価を得た。その中でも「授業の要点・内容の整理」が38点であったことは、授業内容の組み立てや方法等の検討の成果であると考える。「知識、技術等役立、関心」は25.7点であることから、さらに学生が理解したこと身につけた知識・技術を実感できるように工夫していきたい。自由記述において「事業案作成についてもう少し説明がほしかった」というコメントがあることから、次回は事業案作成の説明についての理解状況を確認しながら進めていきたい。

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
事業構想学概論	・事前学習に取り組んでもらえるよう，次週の予告，課題を出すなど工夫をしたい。
地域活性化とビジネス	多様な教員が講義を行うことにより、様々な地域活性化のあり方が提示できる良さがある点については、引き続きそれを生かし継続する。 事前学習を充実することができるよう、取り組んでおきたい点をまとめ、初回の講義等で説明を行うようにする。 1時間目で遅刻する学生が散見され、講義の進行の妨げになっている点については、大講義室での管理方法を検討する。
地域社会・産業とデザイン	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・デザインの本質や必要性を知ることが出来た ・色んな視点から、生活に息づくデザインを知れて、本当にためになり、楽しい授業だった。最も大学一年の中で好きだった授業といっても過言ではない。 ・地域社会とデザインの関係などについて学びが深まりました。 【改善すべき点（自由意見抜粋】 ・出席確認 ・レポートで書いてほしいことをもう少し具体的にしてほしい. 【来年度の授業改善について】 ・成績評価及び授業評価アンケートからは全ての項目において肯定的な評価であり，また期末レポートの評価結果からも到達目標に対する学生の到達度も良好であった．特に学生の学修意欲を喚起するという点で，Soceity5.0に関連する外部講師を招聘した効果が大きかったと考えられ，今後も有益な外部講師の招聘を進めていきたい. ・授業時間外での学修を促すために，引き続き課題設定に配慮する. ・改善すべき点に指摘されている出席確認については，出席確認用PDAが回りきらない問題が数回生じた．今後はMoodle等のオンラインによる出欠管理方式を取り入れたい.
法学概論	基礎法学となるため、開講時期が2年後期と遅く、他の関連科目と関係上、学習成果に問題が生じられると思われる。開講時期を早める等の検討を行いたい。
経営学概論	他の経営学科目と並列した2年後期開講は教育効果を減ずると感じている。 一年次開講がふさわしい。
マクロ経済学	数式を使うため、文系にとって難しい科目出るかもしれないが、これまで通り、教科書を読み、授業で学修し、計算問題を解くことによって、学修は深まると考えられ、継続したい。
社会調査法	令和2年年度は、コンピュータラボ(DMC)のコンピュータが使用できず、インストールとアンインストールの時間が必要となるため、内容の変更が必要となる可能性がある。
数理計画	・TAの活用も含め，事業中並びに事後の指導を充実させたい。 ・小テストの返却に期間を要したため，早期返却に努めたい。
キャリア開発Ⅰ	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【よかった点についての自由記載】（抜粋） ・卒業生の話を伺えたこと ・実際の社会人に話を聞く機会はなかなか無いので、大変貴重な経験だった。 ・進路を考えるのに役立った。 ・様々なお話を伺え充実した時間を過ごせました。 ⇒キャリアデザインⅠとⅡで深めた「自己理解」を踏まえて、卒業生の話を聞くことやエントリーシートの記入を通じて「社会理解」及び「職業理解」を得られたと思います。この講義内容を踏まえて3年生で取り組むキャリア開発ⅡとⅢで更に深めてほしいです。 【改善点についての自由記載】（抜粋） ・根拠のない精神論のようなものを聞かされた。せめて、その情報がどこから出たものなのかを明記するべきである。授業が開始した際に、遅刻者が座るまで授業を始めないという対応をしたが、最初から着席している方からすると無駄な時間である。 ⇒このような伝わり方をしてしまったのは説明不足であると捉え根拠を提示できるよう努めます。開始時の対応も確かにそのような考え方もあると思うので改善します。

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
キャリア開発Ⅲ	全体的に質の底上げが出来るよう努めて参りますが、特に下記3点の改善に注力したいと考えます。 ※アンケートの回答平均値が低いものにフォーカスすべく、下記3点を選定しました。 ①学んだ知識や技術が役立つとより感じられる講義内容にすること：進路選択や就活準備に必要な内容で あっても「なぜ必要なのか」「なぜ役立つのか」「どう役立つのか」をより明確に伝えていきます。 例）エントリーシートの作成課題をなぜ5月上旬に出すのか？→6月～7月上旬にインターン選考が 始まった場合、単に間に合うだけでなく通過出来るエントリーシートを書けるようになるため。 ②授業の要点や内容の整理の工夫：講義内容に様々な情報を詰め込み過ぎてしまう傾向があると思われ、 分かりにくい、理解しにくいと感じられる部分があるように思われます。再度、伝えるべき要点、 受講学生の皆さんが学ぶべき要点を整理し、選択と集中を行ってシンプル化を図りたいと考えます。 ③教材と説明の適切さ：上記②と重なる部分もありますが、資料がより分かり易いものになるように、 内容や説明の整理・選択と集中・シンプル化を図りたいと思います。また講義全体や各回講義での 目指すべきゴールの明確化も必要と思われるので、ルーブリックの見直し（明確化・シンプル化）や 各回講義でのゴールの明示なども行っていきます。 講義で学ぶ内容がなぜ必要なのか。どう役立つのか。スムースに理解が進むように整理されているか。といった点を改善していく所存です。
身体と認識	特段の改善点は指摘されず、概ね好評であったが引き続き内容のアップデートとブラッシュアップを図りたい。 要望として全資料の配付が上がった。必要な資料についてはMOCAで入手可能としていたが、さらに要望に応えられるよう配慮したい。
伝統と文化	授業時間前半のレポート作成について、短期的な記憶に頼るような学修となることは否めず、十分な理解を深めるための改善が必要と考える。
素材と加工	授業時間前半のレポート作成について、短期的な記憶に頼るような学修となることは否めず、十分な理解を深めるための改善が必要と考える。
価値創造デザイン演習Ⅱ	授業評価アンケートへの協力ありがとうございました。 ＜よかった点について＞ ・説明もていねいにおこなっていただいて分かりやすかったです。また先生自ら教室内を移動して質問とかをしやすくして貰えたのが大変嬉しかったです。 ・様々な人とアイデアを共有できる機会が多くあってよかった。 ・最初はわかりやすかった ・コースが違っても取り組みやすい内容だった。 ・プロセスや制作方法など細やかに説明してくださるのでいつもわかりやすいです。 (教員より) 様々な技術や知識を組み合わせる必要がある課題でしたので、進捗を共有したり、途中でレビューをする機会を設けて改善していくプロセスを重視しました。実際のデザインでも改善プロセスは非常に重要なので今後も活用していきます。今回の演習では80名で一斉に制作を進めるので、なるべく慎重に情報提供をすることを心がけました。今後もSlackなどのリアルタイムコミュニケーションを活用して学びの支援を行なっていきます。 ＜改善点＞ ・後半に行くにつれ説明が早くついていけなかった ・感性情報デザインコースの専門性の高い内容に寄っており、生活環境デザインコースの学生は少々不利であるように感じました。 ・一人一人のやりたいことをTAに聞くスタイルでは、一定の技術が身に付かないと思う。もう少しわかりやすく技術の共有をしてほしい。 (教員より) 今後の演習では、進行が遅れてしまった学生のサポートを取れるよう、時間配分とTAの割り振りを検討します。またWEBでポートフォリオを作成するという事が、今後はかなり一般的になることを踏まえて、コースの専門性に偏らない内容を心がけます。
経営戦略論	授業目的はおおむね果たしたが、経営学概論と同時期開講は教育効果を減ずると思う。
マーケティング	今回の授業評価アンケートには含まれていないが、講義内で行った「本講義に関するアンケート」では、 ・レジュメを配布してほしい ・講義のスライドの展開が速いため、もう少しゆっくりしてほしい などが含まれていた。レジュメは最終回に配布しているため問題ないが、スライドの展開については学生の状況を鑑みながら進めるよう努めたい。
ロジスティクス	
マーケティングリサーチ	

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
eビジネス	デジタル社会が進む中でeビジネスの重要性はますます高まっているので，企業の特別講義も交えて，実践的な視野と知識が身につくように取り組みたい。
会計学概論	会計学関連の基礎科目となるため、開講時期が2年後期と遅く、他の関連科目と関係上、学習成果に問題が生じられると思われる。開講時期を早める等の検討を行いたい。 また、簿記の授業が閉講されたため、会計講義全体の運営が難しくなっている。会計学で簿記の対応を行っているが、本来は適切ではないし対応が難しい。資格講座を並行して開講し、高い合格率を得たが、本来は簿記を行う講義ではないため、悩ましいところである。簿記関連科目の復活を検討したい。 さらに、簿記の応用科目も閉講してしまったため、ビジネス系の学類としては、物足りなさを感じる学生も多いようである。
金融論	・全体項目にわたってバランスよい評価となっているが、金融という専門的な領域であることから、より高いレベルの授業を求める学生とやや難しさを感じる学生の両方が混在しているようである。成績分布から見ても、基本理解を重視するというスタンスは変える必要性は感じないが、より実践的な話や少し高度な話を一部に加味していくことを考えたい。 ・授業方法については、一定の評価を得ているものの、よりいっそう理解しやすい講義に務めたい。 ・一方で、基礎理解を定着させるため、事前・事後学修を促す課題を提供を充実することにしたい。
経営組織論	新カリキュラム2年次後期科目として、専門科目の基幹的科目として、その後の展開科目への基礎として位置づけられる。講義内容、講義形式、評価方法について、基本的な変更を予定していない。これまでと同様に、最新の理論、事象・事例、教育メソッドを導入することで、大学生に対して本来求められる知的好奇心をより喚起して、修学意欲（モティベーション）を高水準に持続させて、学生自身が主体的に学習行動を選択するような、真摯な授業の実施を志向していくものである。授業の第1回においては、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」などを配布し、「評価方法」「評価基準」を再確認することで、受講生の「納得性」を高めることで授業担当者としての「説明責任」を果たすとともに、学問に対する継続的取り組みとしである「学習メカニズム」の構築および、3年次以降の「就職活動」などの支援に際しても、十分な配慮をする予定である。また、「事前に、次回の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」、「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」については、本年度も授業の最初の部分と最後の部分で、この2点について周知徹底する（各3分程度）。また、本授業は大学の専門科目であることを受講生全員に周知させ、不見識な態度、授業の欠席など、学問に対して真摯に取り組むことへの逆機能の事象について一貫した対応で教育実践する。これについては、受講生からも高い賛同を得ることができている。さらに、「論理的思考力」、「論文構成力」、「論文表現力」などの向上を目的として、最終レポートの評価ウェートを80%と維持する。最後に、毎年、自由記述において「最も大学らしい授業である」、「最もまともな授業である」などという評価を得ているが、これは他の科目担当教員とのレベル差、相互理解の不足でもあるので、当該領域の担当教員に対して、授業内容・方法のレベル向上と基本的価値の共通性を図る努力をしたい。
企業会計	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、今後は、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
地域資源論	今年度のアンケート結果より、講義内容の要点整理を、講義冒頭に示すなどの工夫を行い、わかりやすさの更なる充実を図りたいと考える。また、教材及び教材の説明の更なる改善が求められることから、用いている教材の解説を丁寧に行いたい。教材としては、地域資源を活用する際に有効となるオリジナルのワークシートを用いている。その説明を補足できるマニュアルの作成を進める。そして、今回の分析結果からは、特に事前事後学修の不足が判明しており、この課題への対応を図っていきたい。
地域社会学	授業評価アンケートの結果から、映像資料、映像教材等を多用することで理解を深め印象に残りやすく、更にこれらの資料、教材を踏まえて議論を行うことにより、通常の講義形態よりも、より多くの考える機会を与える講義にすることができたことがわかる。ただし、テーマ的にその内容等が難解なため、映像資料等の理解が一部の学生にとって十分なものとなっていない可能性が見受けらえた。 こうした点を踏まえ、次年度以降においては、映像資料や映像教材の論点をより明確にすることにより、学生がより理解しやすい形にするとともに、当該資料および教材に付随した形での説明や解説を講義およびその前後において実施することにより、講義内容のより深い理解を促す形態を検討する予定である。
国土・地域計画	事業構想学群における地域系の科目の基礎講義であるので、各回のテーマを明確に示すとともにレポート課題を課すなどより深い学習機会を与えることを試みたい。
地域分析学	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 ・講義およびスライドがわかりやすく、説明が丁寧であったといった意見を頂きました。引き続き、実際に分析する機会・作業時間を多く設け、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。 ・約100名が一斉に学ぶ講義であるため、学生間の理解度に対するバラつきは大きいものがあったと感じています。また、2名の教員が前半と後半に分かれて講義を実施しましたが、その繋がりをわかりやすく示すことで、より深い理解に繋がるように今後さらに配慮が必要であると考えます。
地域交流論	
都市計画	課題、小テスト等の充実を図りたい。
地方自治	次年度は、各講義でのポイントを精査し、整理した上で講義での提示を行い、理解の促進を図る。 また、内容の理解をさらに促進することができるよう、時間外学習の充実を行う。

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
コミュニティ創造	・コミュニティ創造は、地域創生に向けた理論と実践を学ぶ専門科目であり、ゲスト講師によるケーススタディの分析を通して、実践的な知をさらに提供できるよう工夫を行いたい。 ・コミュニティの活性化のプランを構築する演習課題を課しており、これらの考察を踏まえて、実社会に活用できるようなディスカッションをさらに増やしていきたい。 ・グループでの議論を行っているが、発表の時間が十分ではないため、中間と最終に発表会を設けて、理解度を高める工夫をしていきたい。
交通計画	・今年度の進捗を参考に，講義内容（テーマを絞り込む方向で），構成を見直し，講義資料を改定していきたい。 ・講義中のディスカッションをより活発にするべく，事前学習を増やすような工夫を検討したい。
商法・会社法	授業評価アンケートへのご協力をどうもありがとうございました。 【良かった点についての自由記載】（抜粋） ・分かりやすかった。 ⇒ありがとうございます。次年度以降は、初学者の皆さんにより分かりやすい資料や教材を提供できればと思っています。
環境心理・行動学	・「授業マナー遵守への配慮」以外は高い評価であり、ほぼ満足できる内容であったと考えられる。 ・成績評価が「可」に偏った結果となっているため、より理解を深めるために、シラバスに示した「授業時間外学習」を強調することで、予習・復習の強化を図りたい。
景観工学	課題、小テスト等の充実を図りたい。
環境衛生工学	学生からの評価が、全項目とも全授業の平均値よりも高かったのでまずは良かったと思います。これまでいくつかの大学で講師をしてきましたが、毎回、受講する学生は40人～50人くらいであったのに対し、今回は14名でした。そのため、かえって今までと違い学生一人一人と向き合うことができるのではないかと考え、授業では各学生に毎回ミニレポートを書かせ、次回にコメントを付けて返却するという作業を行いました。そのため、学生の思考力と授業に対する興味が増したのではないかと思います。また、学生一人一人と意見交換ができ、学生のコミュニケーション力も向上したのではないかと思います。今年度も、受講する学生が大幅に増加しない限り、同じ方法を採りたいと考えています。ただ、毎回のレポートでは、概ね各自がその授業で感じたことや興味を持ったことを自由に書かせていましたが、たとえば、廃棄物リサイクルの授業では、拡大生産者責任の概念が導入された背景と成果について書かせるなど、もう少し絞り込んだテーマでレポートを書かせることも必要であったと思います。こうした点を今年度は改善していきたいと考えています。その他、授業では各自10分程度「私たちが暮らしている地域の環境問題と解決方法」というテーマで全員の前で発表させるという機会を設定しました。きちんと発表できるのかどうか多少心配でしたが、しっかりした発表をしてくれた学生が多かったので、大変良かったと思います。宮城大学の学生は潜在能力は十分あるのではないかと思いますし、それを引き出すのが教員の仕事のような気がしています。今年度も実施したいと考えていますが、学生間でお互いを評価するような仕組みを何らかの形で入れていきたいと感じています。その点の改善を検討したいと考えています。
災害の科学（土）	丁寧に計算の方法が理解できたとのコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧にやっていきたい。また、野外における土壌の観測や実験、災害復旧の現場見学などを取り入れ理解の助けとしたい。
建築法規・環境法規	
建築史	
水理学	･受講ノートによる振り返り学習は、一定の成果があったと思われる。 ･どの公式が特に大事なのか、配付された資料でどこが重要なのかさらにわかりやすい資料の調製に努めたい。特に、授業が進むにつれて難易度が上がってくることから、数物系の苦手な学生にとっては、混乱することもあったと思われる。 ・「学生の理解しやすさ」を念頭に講義を進めた。地域科学コースでは水理学は専門基礎といえる科目なので、今後もできるだけ丁寧な授業の進め方に務めたい。 ・今後は、課題としての事前学習の指示を検討し、授業の進め方にメリハリを付けたい。
構造力学Ⅱ	
建築一般構造	・模型作成などを織り混ぜることで理解を深めるような講義に力を入れていきたい。 ・学生とのコミュニケーションの取り方や授業を進めるスピード、配布資料の必要性などについて、検討したい。
施工技術	・自由記述によると、配布資料や動画など教材について、高評価が得られているので、今後もさらに教材の充実を図りたい。
建築設備	
構造力学演習	・理解を深めるための課題の出し方などについて、検討したい。
地盤工学	特になし。今後も実験と座学を組み合わせて講義を進めたい。実験は太白キャンパスの設備を使わないとできないため、今後受講生の希望なども考慮し、大和キャンパスでもできるようにしていきたい。
メディアプログラミング	・データ構造とアルゴリズムはプログラミングを行うために本質的に必要な知識であるが，その習得には数理的素養を必要とすることもあり，到達目標を十分に達成できない学生も見られた．これらを得意としない学生にも理解できるような教材開発やシラバスの改善を試みる．

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
ウェブプログラミング	授業評価アンケートへの協力ありがとうございました。 ＜よかった点＞ ・先生の作業画面を通してやり方などがわかり易かったのと、質問しやすい環境で良かったです。 ・解説がわかりやすかった。 （教員より） 最終提出物の傾向から、概ねウェブプログラミングに必要な基礎的な知識と技術を身につけられる講義内容となったと考えています。今後はさらに応用力が身につくよう、講義外で活用できる資料やサンプルファイル配布などの改善を検討しています。 奥に長い教室なため、奥に座っている学生はスクリーンが見えにくい状況があったと思います。プログラムの特性上、細かい文字を提示する必要があるので、画面共有や複数台のプロジェクター活用などを実施して改善していく予定です。
情報構造と可視化	授業内容を変更します。詳細はシラバスを見てください。 授業時間外学習を以下のように変更します。 予習: 事前に公開された講義資料に目を通す。 復習: 制作課題への講評を踏まえて制作物を洗練させるとともに、グループ単位でレポートとしてまとめる。
感性情報デザイン演習Ⅰ	・教材や授業の難易度は適切であると考えているが，学生毎の個別の理解度や提出課題の質を確認しながら毎回の授業内容を微調整していく． ・演習中は必ず全ての練習問題を全員に自力で解く努力をさせた後に，その詳細な解説を丁寧に行っている．これにより，受講者は自分の頭で考える力が身に付き，プログラミングへの理解が深まっているため，引き続きこの方法を取り入れて授業を実施する．
エクスペリエンスデザイン	概ね好評であり、とくにユーザビリティテストを実際に行う等の実践性については高い評価を得たが、引き続き内容のアップデートとブラッシュアップを図りたい。 「知識・技術等役立、関心」が他の授業よりも低かったため、次年度以降は、レポート課題としていた評価方法の実施結果を発表会形式で、受講生全体で共有する回を設けることも考えたい。その際、担当教員からもコメントをフィードバックするようにしたい。 UX事例に対する要望については、内容の拡大とアップデートを図りたい。テストの際持ち込みメモの作成をするのはそれ自体を事後学修の機会とするための工夫であり、今後も継続したい。
感性情報デザイン演習Ⅲ	【作品制作チーム】 ・作品制作においては，高いPCスペックが要求される作品が多くあったが，学類で提供できるPCのスペックが低く，性能を最大限に発揮できない作品が見られたことから，一部のPCを学類として更新して対応する ・本演習は卒業研究に繋がる最後の演習であり，卒業研究で必要となる自らが主体的に学ぶ姿勢や行動する資質が求められる．受け身の姿勢で演習に臨み，自ら進んで学ぼうとしない学生も見られたため，今後は本演習の性質や意図を正確に伝える． 【リサーチ（映像制作）チーム】 成果DVDについては2020年6月にパッケージ版が完成し、周知していたとおり履修学生にも配布予定である。
情報サービスデザインⅡ	より実践的なテーマに変更する予定です．
空間情報コンピューティング	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・記載なし 【改善すべき点（自由意見抜粋】 ・記載なし 【来年度の授業改善について】 ・成績評価及び授業評価アンケートの評価点は平均に比べるとやや低めの傾向にあり，特に難易度の面でさらなる調整の必要があると認識している．授業改善に向けて，次年度の授業では，授業構成の見直しを進めるとともに，学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるように演習課題の充実を図る等の工夫を進めていきたい．
造形・プロダクトデザイン	改善点に関する意見を真摯にうけとめ計画に反映していきたい．また創作的課題について理解してもらうよう説明を丁寧におこないたい．本授業によりポートフォリオを充実させ目的を達成(クリエイター職内々定)した学生も少なくなく本授業における成果品の利用法についての周知を徹底したい．
感性デザイン評価法	履修生のモチベーションも高く、実習を高い密度でとりいれインタラクティブ・アクティブに授業を構成したことにより、概ねそれらの高いモチベーションにも応えられたと考えられるが、引き続き、特に実習テーマのアップデートとブラッシュアップを図っていきたい。
編集・広告デザイン	
造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ	今年度は昨年踏襲で特に変更する予定はない。

令和元年度後期　授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
生活環境デザイン概論	・いずれの評価項目も全学平均を下回っており、中でも「授業の要点・内容の整理」の値が著しく低い（8.66667）。本講義は、「生活環境デザイン」の分野で学ぶべき幅広い学問や技術について、その入口のみを概観するものであり、各回のテーマ（取り上げる対象や分野など）は様々であり、また、それぞれの内容は、本来15回で構成されるものの表面的な部分のみを網羅することになり、散漫な印象を生じることは否めないが、今後は各回の冒頭で、主旨や要点を説明した上で、解説に入ることを心掛けたい。 ・自由記述に「寝させないための穴埋めによって書くのに必死になり、授業内容が全く入ってこない。」とあるが、事前配布している空欄を設けたパワーポイントの主旨は、事前学習による予習と事後学習での再確認に用いるためであることをシラバスに記載している。講義中にパワーポイントの書写に終始する様子も窺えるため、講義初回のガイダンスでも資料の使い方に触れるようにしたい。
生活環境デザイン演習Ⅰ	・初めての専門的な演習であり、短時間で多くの様々な内容に取り組まなければならず、苦労が伺えるが、複数の教員とTAで担当しているので、時間外の質問や指導に力を入れていきたい。特に、コメントにあるように、CADの使い方など、個別の技術習得について、エクステンション講座などを工夫したい。
生活環境デザイン演習Ⅲ	・対象施設・地区の規模も大きく、用途や機能なども複雑で、かなり難易度の設定は高くなっているが、専門科目としての最終段階に位置づけられる演習科目であり、次年度の卒業研究や卒業設計に向けての素地となる内容であることを理解していただきたい。そのようなねらいを十分理解してもらえるよう、ガイダンス時や各講義時に主旨の説明を繰り返して徹底したい。また、より理解を深めて、効果的な学習とするために、受講者数などを考慮しながら、チームの人数構成や編成の仕方について、より有効な方法の検討と試行を重ねたい。

令和元年度後期　授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食産業学概論	
微生物学	・板書が見にくいとの指摘があり、次回（本年度Teamsによる遠隔講義）での開講のためパワーポイントで示す。 ・板書についてのコメントで、微生物を手書きが良かったとの意見もあり、遠隔講義でも工夫したい。 ・事前・事後学修ができていないようであった。そこで、事前・事後学修できるような課題設定を行う。 ・理解度が低いようであった。そこで理解度を向上させるような学習法・興味を持つようなトピックスなどを交えた講義法にする
環境科学	コメントカードを使って質問に答え，疑問点を解決する方法が効果的であるようなので，この方法は継続したいと考えている。ただし，あらゆるコメントに授業時間内で答えてしまうことで，事前・事後学修がなされないことが危惧されるため，コメントの内容を授業時間外で考えたり，調べたりするような工夫も考えている。また，授業時間外での学修を促すためにも，簡単な課題を与えることや，次の内容のキーワードを示すことも考えている。 扱う内容や配布資料については，「わかりにくい」，「見にくい」といった意見が複数出てきている。資料については，必要以上のものを入れないようにし，見やすいものに改善する。また，内容については，「環境科学」に固執し過ぎると難しくなることに加え，受講学生の中に基盤教育科目の「環境科学入門」を履修した学生，履修中の学生，履修していない学生が混在していることも踏まえて再検討する。特に，専門用語や難解用語を最小限に抑えることや，わかりやすい説明をすることを検討する。また，別の意見として，「食」に関連する内容にしてほしいという要望もあるため，「食」や「食産業」を通して環境科学を学ぶ内容にすることで，よりわかりやすくできるのではないかとも考えている。 その他，試験で記述が多いことや，期末試験に中間テストの範囲を含めることについても意見が挙がっているが，一方で記述力がついて良かったという意見もあり，中間テストの範囲は重要でもあることから，十分に検討し，必要であると判断した場合には，それらの必要性を講義の中でしっかり説明することを考えている。
生化学	・板書　昨年度までは、ホワイトボードでの板書を行ってきた。しかし、本年度はオンラインに切り替え、パワーポイントでの講義をすることにした。学生のノートする機会が減ったが、構造式などわかりやすくなるように改善する。 ・事前学修・事後学修を増やすために、その日の最後に課題を造った。 ・知識だけでない総合力が見につくようなレポート課題を課すようにする。
専門基礎実験	
食材生産・加工実習Ⅱ	・受講者確認が目的意識を持って参加できるよう改善を続ける。 ・レポートの省力化を図る。一方でコピー＆ペースト対策も講じる。 ・見学等，日程変更のある際には早く告知する。
キャリア開発Ⅰ	”キャリア”を考える際に、”自己選択権”と”自己決定権”は大切です。そのためには、自己理解、環境理解が必要となります。この「キャリア開発Ⅰ」では、環境理解である職業理解に焦点をあてたシラバス構成となっています。 業界・企業・職種研究のレクチャー後、班ごとにターゲット企業を絞り、企業研究発表会を実施しました。企業研究発表に向けて、班ごとに役割分担を決め、実際に企業研究を行う事で、業界や企業の見方が深まったと思われます。班内での役割分担や企業研究内容、発表時の態度など班で差がありました。また、グループワークに対する関わり方の温度差も感じられました。目的意識を高め、グループワークへの関わり方を再度確認したいと思います。 就職活動の早期化への対応と、大学生活の2年間を振り返るために、自己の文章化も実施しました。改めて大学生活の経験をまとめる事で、今後の大学生活や職業選択に、現時点で何が必要で、何が不足しているのかを実感できた学生も多かったです。卒業生や地元企業の経営者の講話より、自己の将来や、企業が求める人物像をイメージ出来たと思います。一方、職業理解と自己理解を結びつける事ができたかは不透明です。自己理解のワークを適時活用していきたいと思います。
キャリア開発Ⅲ	落ち着いて就職活動に臨めるよう、求人票の見方、履歴書の書き方、グループディスカッション、面接練習などのノウハウを伝えました。キャリア担当教員や担当以外の教員、進路指導員に協力頂き、グループディスカッション、面接練習は演習形式にて実践力を身に付ける事がでたと思います。演習形式で確認できた、個々人へのフィードバックやフォローを強化していきたいと思います。 また、食産業学群内での業界研究会を実施し、学生の就職活動に対する意識をより高める事ができました。この講義とリンクし、職業選択や就職活動などの相談、履歴書添削など、進路指導員が個別に対応しています。今後、学生のニーズを踏まえ、かつ実践的な内容にしていきたいと思います。
食材生産経営学	食材生産「経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思っています。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。 タクシー運転手の給料の決め方、アイスの販売方法等の実例を挙げた講義が好評だったので、そういった内容を増やしていきたいと思います。また、簿記を含む会計の説明時間を増やすようにしたいと思います。
アグロテクノロジー	本講義は基礎的な知識の習得から最新の事例紹介までをカバーした構成になっており、4人の教員が他分野にわたって講義を行っている。学生からは多くの分野について学べる点が評価されており、今後もこの構成を維持し食産業に関わる多様で最新の知見を提供していきたいと考える。その一方で、アグロテクノロジーの進展は著しく刻々と状況が変化していることから、知識提供を行う際には理解が追い付くように配慮する必要があり、小テストを実施するなどで対応を行ってきた。今後はさらに時間外学習を促すよう、課題を課すなどの対策を行っていきたい。

令和元年度後期　授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
農産食品学	毎回受け付けていた質問に対して、講義時間の関係上、十分に答えることができなかったため、来年度下記の項目について継続的に取り組む。 ・ 考えさせる小テストの継続 ・ 分かりやすい資料の作成 ・ 全員プレゼンテーションの継続 ・ 最新の情報の提供
植物生理学	資料のわかりやすさ、小テストが復習等に役立った等のコメントが学生から得られており、授業の進め方は良いように思われる。一方で、アンケート項目の「授業の要点・内容の整理」、「知識、技術等役立、関心」においては、最小値の値が低いことから、そもそも本科目への関心が低く、授業の要点等がわからない学生が少なからずいたと思われる。今後は、すべての学生に植物の面白さを理解してもらえるように、身近な現象等を講義の題材に取り入れる等の工夫を行いたい。
土壌肥料学	
付加価値植物性食材生産法	栽培技術分野では個々に実施したプレゼンテーション（提案・発表）形式を変更する。付加価値を生み出す育種法・栽培法の提案をグループワークとし、授業時間外の事前事後学修としてオンライン・ミーティングなどを活用して取り組むように改善する。その発表の場としてのプレゼンテーションはグループごととし、充分な発表時間と質疑時間を確保する。小グループでの取り組みと、全体発表・質疑を通して、より深く付加価値の意味を考える場とする。育種技術（ゲノム編集）分野では専門知識の解説に時間を割いたため、事例調査に充分な時間が確保できなかった。次年度は、専門知識の解説と事例研究のバランスを調整する。
食資源開発学	・授業マナー遵守の配慮が不足しているようであるので、全員が授業に集中できる環境に改善したい。 ・学生が思う目標到達度と教員が想定している到達度の間に差があるようであり、より高い目標に到達できるよう、事前・事後学修を工夫したい。
畜産食品学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。 受講者の数によっては、プレゼンテーションを行う。多すぎる場合は、別のアクティブラーニングを実施する。
動物生理学	自主的に生理学関連の本を読む、動画を視聴するなど積極的に取り組んでほしい。講義中に有用な図書等紹介しているので、まずはそれを手に取ってみてほしい。覚えることが多いが、生理学はすべての基礎となる科目なので努力してほしい。引き続き学生の興味を引き出せる講義を心掛ける。
動物衛生学	新型コロナ感染症拡大で、感染症は日常生活を一変させるということが体で理解できたと思う。来期はより具体的な取り組みができると思われる。学生による発表は、自主学習を進め理解をより深めることにつながるので、来年度もしっかり取り組ませる。
付加価値動物性食材生産法	
循環型動物生産論	検証：本科目は今年から開講された科目であり、内容についてはシラバス通りにはいかなかった。その結果と思われるが、受講生からは、「シラバス通りにやってほしい」との意見が出されている。また、「何回かあったテストが難解」とのコメントもあったが、内容を理解していない証拠である。全体に評価は低く、今回は講義の構成が手さぐり的なところがあったため、学生に理解しずらいところがあったかと思われる。 改善点：今年の結果を踏まえて、シラバスの内容を1度整理する予定である。また、自分の内容は草地をベースにした内容で、動物そのものの内容が少ないことから動物系の学生には受けない傾向にあると思われる。その辺も踏まえて、シラバスの内容を修正する。分かりやすくと思い、説明が長くなったり、無駄な話と思われる内容があったとすれば、その点は注意して講義をしたい。
植物生産基礎実験Ⅰ	実験実習では、まず実際に実験を行ってみる（体験してみる）ことが大事なので、グループでの実験においても各自積極的に実験操作を行ってもらいたい。各実験方法の原理を理解した上で、一つの実験操作がどのような意味を持っているのかを理解しながら実験することが成功、上達につながり、一方で準備不足であれば不注意等から実験を失敗してデータが取れずにその後の解釈もできないことになるので、十分な準備（事前学習）がいかに大事かを理解してほしい。今後は、この点について講義開始時にしっかりと説明を行う。
動物生産基礎実験Ⅰ	「面白かった」とか、「興味を惹かれる」内容であったというコメントが寄せられたことは、実験が興味を持てる内容になっていたものと思います。実験は時間割の時間を超過することがしばしばあるので、時間割に縛られない午後に組まれています。実験がスムーズに進む様に努力はしますが、実験の終了時間が必ずしも時間割通りにはならないことをご理解ください。 　動物の経済形質についての数的評価とその遺伝性評価は、動物性食材（畜産物）の生産性効率を高めるためには最も重要な手法であり、大卒以上の国家公務員試験や地方上級試験では必ず出題されるほど、大学以上の教育機関においては学ぶべき基礎的内容です。当然それに伴い難易度も高いレベルの内容になりますので、難しい内容を習得できるように今後も自助努力をすることを期待します。他方、より理解し易い説明にも努めたいと思います（須田）。
植物性食材生産実験実習Ⅱ	・教員間で連絡を密にし、本実験実習の意義について理解が深まるようなプログラムを構築する。
動物性食材生産実験実習Ⅱ	

令和元年度後期　授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
付加価値植物性食材生産実験実習	実験実習として最後の科目であるため、計画立案・実験実施・結果解析と考察について、より主体的に取り組めるよう改善する必要がある。そのため、栽培技術分野では、実験計画をグループで立案して全体で議論する場を設け、修正したうえで実験実施するように改める。育種法分野では、実験材料の未整備と観察の時間的制約からゲノム編集実験を行うことができなかった。ゲノム編集は今後の植物育種・バイオテクノロジーにおいて鍵となる新技術と考えられるため、実験材料と方法を見直し、ゲノム編集を取り扱う実習プログラムを設定する。また、実習のグループを少人数にすることで、各々のグループの実験プロジェクトを主体的に実施できるようにする。
付加価値動物性食材生産実験実習	
分子遺伝学	特に、理論については具体的事例などを示してイメージしやすい講義に努める、また今後も事前および事後学習を促す課題や小テストを課す。
食品マーケティング論	学生側が授業で主体的・能動的に参加できるように毎回デスカション課題について議論させ、プレゼンテーションもさせることにより、多方面で学生の能力を引き出すことが必要であると思われる。
食産業政策論	食産業学群の受講生にとって、法律や行政制度は馴染みが薄く、難しいものとの先入観を持っていることが多い。既に学んでいる食に関する科目で学修した事項や飲食店でのアルバイト経験など、自己の経験、知見に結びつけられた学生は、派生的な事後学修に繋げ、自ら思考し、理解を深めることができた傾向が強い。このため、学生の他の学びや生活と関連を想起し易いように、教材提供や説明内容を工夫することとしたい。
食品の安全性管理	アンケート結果より、改善点として「受講人数に対して教室が狭かったので次からは対応して欲しい」との意見が出たので、アフターコロナのことも考慮し対応が急務であると考えております。また、良かった点として「外部講師を招いての講義が多く、食品業界の実際を知るのに役立った。」、「様々な企業、講師の方々のお話を聞けて良かった。これからHACCPが義務化されるので役立つ講義だと思う」、「様々な企業を呼んでくださって、実際の衛生状況などをリアルに知れてよかった。」などの声が聞かれたことは、実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習ができていない状況が見受けられることから、次年度は小テストなど取り入れて、予習復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思います。 また、ＨＡＣＣＰプラン作成のグループワークも履修者数が多く実施できなかったことから、次年度は実施できるよう工夫していく予定です。本学群の卒業生は、民間企業で品質管理の職に就くことも多いことので、より実践力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張って行きたいと思います。
食品機能開発学	アンケート結果より、改善点として「資料の字が小さい」との意見がありましたので、改善していく予定でおります。また、大講義室での授業であったことから、授業マナー遵守への配慮が欠けていた点も改善したいと思います。また、良かった点として「とてもわかりやすい授業でした」、「原理についてわかりやすく説明されていたので理解が進みました」、「身近にある機能性食品についてより知ることができました」、「機能性食品をを生み出している企業さんを教えてくれたりなど、具体的であった点」、「栄養とかの復習にもなり、知識が深まった」、「ポイントをまとめてあるのは、復習の時にも理解を助けてくれました。ありがとうございました。 復習問題があることでさらに理解を深めることにつながりました。 資料に図表が載っていてわかりやすかったです」などの声が聞かれたことは、食品の栄養・機能性について原理のみならず応用・実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、次年度も小テストなど取り入れて、予習復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思います。
発酵食品・醸造学	・ホワイトボードについて、改善してほしいとのこと。板書について改善していきたい。これに合わせて、予習・復習のノートの取り方についての指導したい。 ・講義中、実際のものを見せる機会も少なかった。もう少し機会を与えたい。 ・外部講師のスケジュール調整し、体系だった講義を行いたい。 ・教科書の使い方（主に講義中は使わず、予習復習で使用する旨）を指導していきたい。
動物福祉論	本授業は３年生及び４年生に同時開講した集中講義であり、しかも評価者数がそれぞれ３名及び２名であった。 評価の平均点が全体平均点を下回った設問は、３年生では①知識や技術の習得・知的関心の喚起、及び②授業外の学習時間で、４年生では①授業の要点・内容の整理、及び②授業外の学習時間であった。集中講義の為、たとえシラバス上で学習課題を指示したとしても、チェックできる状況にはないため事前・事後学習を執行させることは困難であり、②の評点が低いのは致し方ないと判断する。また３年生に比べ４年生の評点は極めて高かった。各学年の知識レベル及び受講動機レベルの差を反映しているものと考えられ、同時開講の課題であると考えられる。意識の高い４年生に比べ、３年生にとってはやや唐突感があったのかもしれない。今後の３年生単独開講に向けて、講義内容をやや減らし、考えさせる講義（アクティブ・ラーニング）に改善して頂くように非常勤講師には依頼したい。
水産利用学	アンケート結果より、難度・進度の適切性、授業改革の分かり易さが低値だったことは改善の余地があると考えています。本授業はフードマネジメント学類の水産食品学とほぼ同じ内容で進めていることから、学類間でこれほどの差が生じたことは反省すべき点です。ただ、授業が1限目であったことから遅刻者が多く、講義の途中からでは理解が十分にできなかったことも考えられるので、本年度はしっかりと遅刻者の出ないよう進めていきたいと思います。
水産資源学	次の年度も引き続き非常勤講師が中心となって講義を進める予定だが，受講者が少なめの科目なので，双方向のやりとりをより強化していきたい。特に，ディスカッションやディベート形式を取り入れた講義スタイルとしたいが，コロナウイルス感染症蔓延の中にあっては，特段の工夫が必要と思われる。

令和元年度後期　授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品企業経営論	指定しているテキストを読むだけであれば１時間程度で予習が可能だが、それを予習の段階でどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業に適用できるかどうかが問われる科目である。経済学と経営学の違いを1/2年のうちにしっかりと理解した上で受講して頂きたい。2020年度については、より具体的な事例を対象とした講義内容を準備していく予定である。
食品化学	・小課題等により，到達度のチェックの頻度を高める。 ・事前・事後の課題により学習時間が増えるよう促す。 ・特に化学の基本知識が足りない・苦手意識のある受講者に対するケアを意識する。
品質保証システム演習	本演習は、実際の食品工場現場を想定し、HACCPを基本的な考え方としながら衛生管理を学ぶ内容となっている。2019年度は、夏季の集中講義として３日間の実施とし、集中的に演習を行うことで、切れ目のない学習が可能となり、高いレベルで内容を身に着けることに成功した。2020年度も基本的にこれまでの方法を基本としながら演習を実施したい。ただし、演習の終盤で試験を行ったところ、多くの受講生が90点以上の得点となり、結果として「秀」の比率が高くなった。一様に高度な習得となったことは喜ばしいことであるが、次年度以降は、さらに高度な内容含む演習としたい。
フードサービス産業論	外食や中食はアルバイトなどで身近であり、食に興味のある食産業学群の学生にとっては履修したい科目であると思われる。アンケートのほぼすべての項目で平均値を上回って推移していることから授業の進行については余り問題視していない。ただ、授業外の学修時間だけが平均値以下になっており、中間テストなどの工夫を行っているが芳しくない。今後は、事前・事後学修の確認を毎時間するような工夫をしていきたい。
食品マーケティング演習	学生側が授業で主体的・能動的に参加できるように毎回デスカション課題について議論させ、プレゼンテーションもさせることにより、多方面で学生の能力を引き出すことが必要であると思われる。
食品企業経営戦略演習	前週に配布する教材を各自が事前に予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になる。また、翌週の課題をこなすためには前週の課題をしっかりう理解していることが前提となるため、復習も兼ねることになり、結局、毎回毎回の積み重ねを十分に要求される授業である。クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められる。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊が綺麗に終了することが多いので、このレベルを維持していく予定である。2020年度後期は新型コロナウイルスの影響で、対面型演習になるかどうかは不明だが、可能な限り、この演習は対面型で実施していきたい。遠隔になっても基本、やることは同じである。
食品経済・政策論演習	最新のフードシステムや食料経済に関する情報を踏まえるため，教材にその年の『食料・農業・農村白書』『食育白書』などを用いている。それらの必要部分のすべて読みこなすことで，フードシステムの全体像をマスターできるように考えているところである。共同学習を促進する観点から，グループに分けて担当を決めているが，残念ながら，自分の担当以外は読んでこない学生もみうけられた。事前学習として，担当以外の部分も読んでくることが大切で，それによって授業における質疑についても適切に実施できる。学生諸君には是非，こちらの課題をまるごとしっかり学んでいただきたいと考えている。また，経済理論についての説明については，今期はやや取り上げることが少なかったが，今後は，内容に即して応用可能なように，経済理論についても取り上げるようにしていきたい。
水産食品学	アンケート結果より、改善点として「メモする場所が多く、説明が聞きづらかった」との意見が出たので、本点については改善していきたいと思います。また、授業マナー遵守への配慮が欠けていた点も改善したいと思います。一方、良かった点として「楽しかった。書き込み式のプリント（レジュメ）がありがたかった」、「動画を使った講義、外部講師を呼んだ講義が楽しかった」、「食品の性質がわかった」、「学外の講師の先生の話を聞けたことが良かった」、「水産について興味を持つことができた」などの声が聞かれたことは、水産物の加工特性や加工品について原理のみならず応用力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、次年度は小テストなど取り入れて、予習復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思います。本学類の卒業生は、民間企業で品質管理の職に就くことも多いことので、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張って行きたいと思います。
食品工学	・講義がわかりやすさの評価が低かったことから、講義での説明を丁寧に行いわかりやすい内容にする。 ・測定機器の操作を実演したことの評価が高かったことから、次年度も継続する。 ・試験の回答率が高かったことから次年度の難易度を高める。
食品栄養・機能学実験	今年度は、各グループ内で協働して意欲的に実習を行い、各個人も熱心に取り組み、毎回の「小テスト」の記述や実習後のレポートも充実していた。したがって、本実験実習の到達目標はおおむね達成できたと考える。実験動物の保定について、実習前には動画を視聴し、実習中はグループを回って説明・実演を行ったが、一部にさらなる説明を求める意見もあったので、今後、より丁寧に説明をするよう努めたい。また、測定実験方法についても、同様により分かりやすい説明を心がけたい。今年度から履修人数が多くなったことで、作業をしにくい状況もあったが、事前準備等を工夫し、スムーズに実習が実施できるよう改善したい。
食品化学実験	・少人数での指導をしたために、各教員間で実際の計画と進行・運営にズレが生じた。修正していきたい。 ・レポートなど評価ルーブリックのすり合わせを行い、より厳密な評価を行う。 ・比較的事前・事後学修は行われたと感じているが、さらなる事前・事後学修を行わせるため、指導の徹底を行う。

令和元年度後期　授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
グローバルフードシステム論	グローバルフードシステム論では，まず国際貿易の経済理論についての学修をしてもらう必要があり，その理論の枢要が「比較優位理論」であり，さらにそれを一般化した「ヘクシャーオーリンの定理」である。これらは公務員試験に頻出のものなので，理解し問題が解けるまでに習熟する必要があり，またそのレベルにまで上げるよう授業では工夫してきた。本来であれば，時間外学修として復習するものと期待していたが，今回の結果は全学レベルを大きく下回った時間外学修時間となっている。概念の学習なので，とても苦労するもので時間外学習は必要なものであるが，残念な結果である。このことへの対策としては，授業ごとに「宿題」や「課題」を課したり，時間ごとに小テストをするなど，時間外学習の時間を確認できるような措置も導入することを検討せざるを得ない。しかしながら，「理論」の応用については，日常茶飯の出来事の中で確認することが最上であり（学而時習之），そうした時間も合わせて大切にしたいと考えたい。
調理科学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。 クリッカーを使ったアクティブラーニングを引き続き実施する。